

【庶務報告】

平成 24 年度 第 1 回役員会

議事録抜粋

日時：平成 24 年 5 月 11 日（金）17:10～19:10

場所：大阪府立大学 生活科学部会議室（2 階）

出席者：12 名

議事：

1. 報告事項

1) 平成 23 年度決算報告について

- ・平成 23 年度収支決算および貸借対照の報告。
- ・事業活動収入計 1,211,635 円、事業活動支出計 1,183,275 円。事業活動収支差額と前期繰越収支差額の計 164,321 円。杉本先生・岡田先生（幹事）が監査され、日本家政学会に報告済み。

2) 平成 23 年度事業報告（部会誌発行 30 周年記念事業を含む）について

- ・平成 23 年度事業
総会（H23. 5. 28 和洋女子大学）。
臨時総会（H23. 8. 29 文化北竜館）。
役員会 2 回（H23. 5. 27 和洋女子大、H23. 8. 29 文化北竜館）開催。
第 30 回夏季セミナー（H23. 8. 29～31 文化北竜館、実行委員長：小柴先生）。
第 31 号被服衛生学発行（H24. 1 月）。
30 周年記念事業：記念号発行（H23. 8 月）。
記念シンポジウム（H23. 8. 30 文化北竜館）。
「アパレルと健康」出版（H24. 3 月）。

3) 第 30 回被服衛生学部会セミナーについて

- ・実行委員長がセミナー概要と、総合討論（「災害と被服衛生学」では、被災状況に今後の被服衛生学の研究活動をどう生かすかの提案があった）を報告。
- ・セミナーの会計報告。収入合計 643,000 円、支出合計 642,021 円。差引残高 979 円は、部会の会計に戻した。今後のセミナーでも会計報告をすることとした。

4) 企画 公開講座（準備状況）

- ・平成 23 年 11 月に科研費を申請し、平成 24 年 4 月に 130 万円が交付された。
- ・公開講座の準備状況の報告。
開催日：平成 25 年 3 月 16 日（土）
開催場所：兵庫県民会館 11 階パルテホール（150 名定員）
公開講座タイトル：衣服と健康の科学、最前線—ここまでする、衣服の力を考える—

実行委員会：委員長：潮田 副委員長：小柴
委員：企画幹事、関西在住被服衛生学部会部員、顧問：部会長、副部会長、30 周年記念本編集担当、関西在住衛生学部会名誉会員等。
内容（予定）1. 人の健康に影響を及ぼす衣服、2. 健康の条件、3. 寒冷時のヒトの生理反応と衣服による寒さ対策、4. 暑熱時のヒトの生理反応と衣服による暑さ対策、5. 災害と安全・安心な衣服・寝具、6. 災害時の衣食住、7. 備蓄用衣料について考える、8. 災害から身を守るための衣服に関するワークショップ。

5) 編集 第 32 号の発行（準備状況）

- ・総経費 10 万 8230 円、印刷部数 135 部、1 冊の総頁数 38 頁、モノクロ印刷。
記事：巻頭言、総説 1 篇、原著 1 篇、講評 2 篇、海外レポート、研究室紹介、セミナー開催報告、庶務報告、会計報告、会則、役員名簿、入退会等手続き、投稿要領、編集後記。
- ・第 32 号の構成案：巻頭言（1）、投稿論文（総説：1）、投稿論文（原著論文：2 篇程度）、海外レポート（1）、研究室紹介（1）、2011 年度夏季セミナー報告（小柴先生）、2012 年度夏季セミナー報告（斉藤先生）、提言、著書紹介、その他、編集後記（1）。
- ・セミナー報告を該当年におこなう意見が出され、セミナー実行委員会に調整してもらうこととした。

6) 会計 会費納入の状況

- ・総会、夏季セミナーで会費を徴収。昨年度より、払込取扱票を被服衛生学に同封。

7) 庶務 会員の動向

- ・平成 24 年 5 月 11 日現在の会員数は次の通り。
2011 年度入会者：7 名、退会者：5 名、名誉会員：12 名、国内会員：74 名、国外会員：2 名、学生会員：7 名、賛助会員：3 名（計 98 名）。
- ・部会員名簿の訂正を総会時とセミナー時に行う。部会誌送付の時に、部会員の氏名、所属、メールアドレス、電話・FAX を別紙として配布することを総会で提案。

8) ホームページ

- ・部会報 31 号、30 周年記念本の案内をホームページにアップしたことが報告された。
- ・要領の大きい PDF ファイルに困っている現状が説明された。

9) 第 31 回被服衛生学部会セミナー準備状況

- ・第31回セミナーの実行委員長が、岡田先生から斉藤先生に交替。計画は引き継がれた。
- ・セミナー実行委員長は斉藤先生、副委員長は加藤三貴先生。

テーマ：被服衛生学からみた身近な科学ー「におい」「香り」、ヒトの事情、ものの事情ー、会場：シルクセンター国際貿易観光会館地下1階会議室、日程：平成24年9月13・14日（木・金）。半日の講演と半日の見学を予定。見学：シルク博物館、横浜開港資料館。写真撮影：写真は経費節約のためメールで配付する予定。

懇親会：中華街の会場、参加費2000円。

- ・親学会の活動助成金10万円が本セミナーに交付された。活動助成金は、家政学会の広報活動の意味をもつので、演者に家政学会員を1名は含むこと、参加者は非家政学会員（一般）を含む必要がある。そこで、当初の計画を変更し、2講演に限定して公開することとした。また、一般の参加費は、無料とすることを協議した。

10) 平成24年度活動助成申請について

- ・資料に基づき、活動助成の募集にはI期とII期があり、セミナーをI期に申請した。

2. 審議事項

1) 平成25-26年度の役員について

- ・部会長の決め方について、資料に基づき選挙による方法が提案された。衛生学部会の規約を一部改正し、次期部会長の選任方法を内規で定める。資料は、投票を依頼する用紙である。
- ・内規は次のとおり。

〈次期部会長の選任〉

1. 次期部会長は、当該年度初頭において一般社団法人日本家政学会被服衛生学部会の会員歴5年以上の部会員（部会長経験者、名誉会員を除く）の中から選任されるものとする。その選任作業は、現部会長が指名した選挙管理委員3名から成る部会長選挙管理委員会が選挙によって行なうものとする。委員長は3名の互選によるものとする。
2. 部会長選挙管理委員会は、有効投票総数の過半数を得たものを、次期部会長候補者として総会に推薦する。過半数を得た

ものがない場合は、上位2名について再選挙を行い、獲得票の多いものを次期部会長候補者として総会に推薦する。同数の場合は、部会員歴の長いものを次期部会長候補者として総会に推薦する。無効投票とは、①所定の投票用紙を用いないもの、②所定の投票書式をもちいないもの、③投票用紙に記名があるもの、④所定の人数を超えて投票したものとす

- ・本提案について、費用や手間がかかること、有効投票数の過半数を得るまでの困難さが予想されること、投票する会員が少ない心配があること、選挙しても辞退があり得ること、部会長以外の交代役員の問題が残ること等、様々な意見が出された。しかし、部会員の声をフェアに反映させ、恣意的なものを排除する決め方であり、本提案を実施してみることとした。実施して不都合があればそのときに改めることで承認された。
- ・明日の総会に本提案を諮ることとした。

2) 平成24年度予算案について

- ・資料に基づき説明があり、異論が無く承認された。

3) 第32回被服衛生学セミナーについて

- ・第32回被服衛生学セミナーは、中部地区が引き受けることで承認された。実行委員長は平林先生に依頼し、内諾が得られた。

（記録：菊池）

平成24年度 第1回日本家政学会被服衛生学部会総会議事録

議事録抜粋

日時：平成24年5月12日（土）12:30～13:15

場所：大阪府立大学 A会場

出席者：17名

1. 報告事項

1) 平成23年度決算報告について(会計 内田先生)

平成23年度収支決算および貸借対照について、資料に基づき、事業活動収入計1,211,635円、事業活動支出計1,183,275円。事業活動収支差額と前期繰越収支差額の計164,321円であったことを報告。引き続き、監事の杉本先生より監査報告書を基に適正であることが報告され、日本家政学会に報告済みであることが説明

された。

2) 平成 23 年度事業報告 (部会誌発行 30 周年記念事業を含む) について (副会長 諸岡先生)

- ・総会が和洋女子大学で開催 (H23. 5. 28)。
- ・臨時総会が文化北竜館で開催 (H23. 8. 29)。
- ・役員会は 2 回 (H23. 5. 27 和洋女子大, H23. 8. 29 文化北竜館) 開催。
- ・第 30 回夏季セミナーが、小柴先生を実行委員長として開催 (H23. 8. 29~31 文化北竜館)。
- ・第 31 号被服衛生学が発行された (H24. 1 月)。
- ・30 周年記念事業として、記念号を発行し (H23. 8 月)。記念シンポジウムをセミナー 2 日目に開催 (H23. 8. 30 文化北竜館)。「アパレルと健康」の出版本を刊行 (H24. 3 月)。

3) 第 30 回被服衛生学部会セミナーについて (実行委員長代理 佐藤先生)

セミナー概要および会計報告を資料に基づいて報告。収入合計 643,000 円、支出合計 642,021 円で、差引残高 979 円は部会の会計に戻した。

4) 企画 公開講座 (準備状況) (潮田先生)

平成 23 年度科研費を申請し、採択された。

- ・開催日：平成 25 年 3 月 16 日 (土)、場所：兵庫県民会館 11 階パルテホール (150 名定員)、公開講座タイトル：衣服と健康の科学、最前線—ここまでできる、衣服の力を考える—、実行委員会：委員長：潮田 副委員長：小柴、委員：企画幹事、関西在住被服衛生学部会部員、顧問：部会長、副部会長、30 周年記念本編集担当、関西在住衛生学部会名誉会員等。
- ・講演内容 (予定) 1. 人の健康に影響を及ぼす衣服、2. 健康の条件、3. 寒冷時のヒトの生理反応と衣服による寒さ対策、4. 暑熱時のヒトの生理反応と衣服による暑さ対策、5. 災害と安全・安心な衣服・寝具、6. 災害時の衣食住、7. 備蓄用衣料について考える、8. 災害から身を守るための衣服に関するワークショップ。

5) 編集 第 32 号の発行 (準備状況) (菅井先生)

第 31 号の発行報告および第 32 号の構成案について報告。役員会から、可能ならば第 32 号には平成 23・24 年度のセミナー報告も掲載するよう要望され、検討する旨を報告。

6) 会計 会費納入の状況 (内田先生)

賛助会員 3 社には会費振込を依頼済み、払込取扱票を部会報に同封して送付する旨報告。

7) 庶務 会員の動向 (三野先生)

平成 24 年 5 月 11 日現在の会員数等は、名誉会員：12 名、国内会員：74 名、国外会員：2 名、学生会員：7 名、賛助会員：3 名 (計 98 名)。部会員名簿の訂正は総会時とセミナー時に。部会誌送付時に部会員の氏名、所属、メールアドレス、電話・FAX を別紙で配布することを報告。

8) ホームページ (平林先生)

家政学会被服衛生学部会のホームページに部会報、出版本等の情報をアップする旨報告。

9) 第 31 回被服衛生学部会セミナー準備状況 (実行委員長 齊藤先生)

第 31 回セミナーは、岡田先生辞退に伴い、齊藤先生が計画を引き継がれ実施する予定。

- ・セミナー実行委員長は齊藤先生、副委員長は加藤三貴先生。
- ・テーマ：被服衛生学からみた身近な科学—「ににおい」「香り」、ヒトの事情、ものの事情—
- ・会場：シルクセンター国際貿易観光会館 BF1 会議室。
- ・日程：平成 24 年 9 月 13・14 日 (木・金)。半日の講演と半日の見学を予定。見学は、シルク博物館および横浜開港資料館で実施。

10) 平成 24 年度活動助成申請について (部会長 成瀬先生)

家政学会の平成 24 年度活動助成申請について資料に基づき説明。第 1 期の活動助成金 10 万円が交付され、次回セミナーで実施することを報告。また、第 2 期の申請 (5/28~9/6) を募集。

2. 審議事項

1) 平成 25-26 年度の役員について (部会長 成瀬先生)

部会長選任方法について、審議事項 1) の資料に基づいて説明があり、選挙による方法を採用することおよびそれに伴って衛生学部会の規約を一部改正し、次期部会長の選任方法を内規で定めることが承認された。なお、投票のお願いおよび投票用紙は資料に示す通りである。

具体的な改正内容は次の通りである。

- ・部会規約第 6 条の末尾に、「なお、その詳細は別に定める。」を追加する。
- ・部会規約附則の末尾に、「この規約は、平成 24 年 5 月 12 日から施行する。」を追加する。
- ・部会内規の末尾に次の文章を追加する。

〈次期部会長の選任〉

1. 次期部会長は、当該年度初頭において一般社団法人日本家政学会被服衛生学部会の会員歴5年以上の部会員（部会長経験者、名誉会員を除く）の中から選任されるものとする。その選任作業は、現部会長が指名した選挙管理委員3名から成る部会長選挙管理委員会が選挙によって行なうものとする。委員長は3名の互選によるものとする。

2. 部会長選挙管理委員会は、有効投票総数の過半数を得たものを、次期部会長候補者として総会に推薦する。過半数を得たものがない場合は、上位2名について再選挙を行い、獲得票の多いものを次期部会長候補者として総会に推薦する。同数の場合は、部会員歴の長いものを次期部会長候補者として総会に推薦する。無効投票とは、①所定の投票用紙を用いないもの、②所定の投票書式をもちいないもの、③投票用紙に記名があるもの、④所定の人数を超えて投票したものとする。

上記決定に従って、部会長より選挙管理委員を指名（後日、成瀬先生・間瀬先生・内田（有）先生の3名に決定）する旨を報告。

2) 平成24年度予算案について（内田先生）

資料に基づき説明があり、承認された。

3) 第32回被服衛生学セミナーについて

第32回被服衛生学セミナーは、中部地区、平林先生（実行委員長）がお引き受け下さることが報告された。

（記録：堀）

平成24年度 第2回日本家政学会被服衛生学部会役員会

議事録抜粋

日時：平成24年9月13日（木）12:00～12:55

場所：シルクセンター国際貿易観光会館地下1階

出席者：15名

1. 報告事項

1) 企画（企画担当幹事 潮田先生）

以下の内容が企画担当幹事より報告された。

1. 第31回セミナーの開催

2. 部会報32号の発行

3. 公開講座の準備状況

・開催日：平成25年3月16日（土）

・開催場所：兵庫県民会館11階 パルテホール

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3

・公開講座タイトル：衣服と健康の科学、最前線—ここまでできる、衣服の力を考える—

・実行委員会：潮田委員長、小柴副委員長、委員—企画幹事、関西在住被服衛生学部会部員

・顧問：部会長、副部会長、30周年記念本編集担当、関西在住衛生学部会名誉会員等

・内容：1. 人の健康に影響を及ぼす衣服、2. 健康の条件、3. 寒冷時のヒトの生理反応と衣服による寒さ対策、4. 暑熱時のヒトの生理反応と衣服による暑さ対策、5. 災害と安全・安心な衣服・寝具、6. 災害時の衣食住、7. 備蓄用衣料について考える、8. 災害から身を守るための衣服に関するワークショップ⇒家政学会発行『震災にそなえて』を用いたワークショップあるいはシンポジウム

・プログラム案

10:00-10:10 開会挨拶 成瀬正春（金城学院大学）

10:10-10:40 人の健康に影響を及ぼす衣服

平田耕造（神戸女子大学）

10:40-11:15 健康の条件

深沢太香子（京都教育大学）

11:15-11:50 寒冷時のヒトの生理反応と衣服による寒さ対策 佐藤真理子（文化学園大学）

13:00-13:35 暑熱時のヒトの生理反応と衣服による暑さ対策 諸岡晴美（京都女子大学）

13:35-14:10 災害と安全・安心な衣服・寝具 水野一枝（東北福祉大学）

14:10-14:45 災害時の衣食住

久慈るみ子（尚絅学院大学）

14:45-15:15 備蓄用衣料についての考え

小柴朋子（文化学園大学）

15:30-16:20 家政学からの提言—震災に備えてを用いた参加者と講師全員ワークショップ（シンポジウム）

16:20-16:30 閉会挨拶 諸岡晴美（京都女子大学）

2) 編集（編集担当幹事 甲斐先生）

部会報32号は2013年1月末日の刊行予定。

内容：巻頭言（部会長に依頼）、稲垣先生からの特別寄稿、セミナー報告（2011および2012年度分）、研究室紹介、海外研修報告等。原稿〆切は11/15。原著論文を募集中。また、公開講座のプログラム、会費の納入願い、部会誌発行30周年記念号の訂正シールを32号に同封。

3) 会計（会計担当幹事 内田先生）

会費納入状況は、現金納入18名（5月の学会時）

で50,000円、振込10名で82,500円。支出に関しては、井上書院・今回のセミナー補助を報告。

4) 庶務（庶務担当幹事 菊池先生）

会員の動向：平成24年度入会者は野田明日香、山口さやか、今井素恵、牟田緑、團野哲也の5名（5月総会以降）。

内訳：名誉会員：12名、国内会員：80名、国外会員：2名、学生会員：5名、賛助会員：3名（計102名）（平成24年11月1日現在）

最新の情報（氏名、所属、電話、FAX、メールアドレスのみ掲載）を作成し、部会誌に同封予定。

5) ホームページ（HP担当幹事 平林先生）

部会則の変更（選挙に関する部分）および本セミナーの案内をアップ。今後、今回のセミナー報告および部会報第32号をアップする予定。総会の議事録は、資料も含めてHPに掲載する。

6) 第31回セミナー（大会長 斉藤先生）

参加者が47名であることが報告され、感謝の意が述べられた。セミナー要旨集に実行委員の前田先生のお名前が記入漏れ。

2. 審議事項

1) 平成25・26年度役員について（選挙管理委員 成瀬先生）

部会長選挙にあたり、被選挙人および選挙人を

確認し、6月投票用紙を送付。7月開票。第1回目で過半数を獲得した候補者がいなかったため、規約に基づき上位2名で第2回目の投票実施。次期部会長として諸岡晴美先生が推薦され、承認された。

部会長より、次期部会長に次期役員を推薦依頼。諸岡先生（次期部会長）がご挨拶の後、次期役員案を提出。次期役員案は、2期目の先生方を中心に、4年で交代する原則に従って作成。内諾が得られていない方もいるので、次期部会長および副部会長に一任し、次期総会で報告することを提案し、承認された。また、次回セミナー実行委員長である平林先生に平成25年度オブザーバーとしての参加が提案され、承認された。

下表に記す。

2) その他

・部会長より、配布資料を基に、親学会である日本家政学会より第65回大会時の部会企画（平成25年5月19日に開催予定）の申請依頼（助成金が上限10万円）があったことが報告され、部会企画案の募集がなされた。企画案は、役員会および総会時もしくは11/10までに部会長にメールで提案し、提案されたものからメールによる役員会で部会企画案を成案させる旨の提案があり、承認された。

平成25・26年度 被服衛生学部会役員

	平成23・24年	北海道・東北・関東	北陸・中部	関西	九州・四国・中国	平成25・26年
会長	1人			諸岡晴美		1人
副会長	1人	斉藤秀子				1人
顧問	3人	田村照子		平田耕造	梶原 裕	3人
企画	5人	○丸田直美	間瀬清美	潮田ひとみ	船津美智子 佐藤希代子	5人
編集	5人	○嶋根歌子	内田有紀	乾真理子 與倉弘子	中井明美	5人
会計	4人	前田亜紀子	中橋美幸	○高野倉睦子		3人
庶務	4人	久慈るみ子	三野たまき	○深沢太香子		3人
HP	2人	○佐藤真理子 加藤三貴				2人
監事	2人	鎌田佳伸	成瀬正春			2人

平成25年度オブザーバー 平林（H25夏季セミナー実行委委員長）

その後 11 月に親学会へ以下に述べる科研費へ応募した有志による講演とパネルディスカッションを計画し、応募した。

・諸岡副部長より、研究テーマ「シニアの健康快適な衣生活を支援するための被服衛生学的研究（仮題）」として科研費を申請する方向で検討することについて提案がなされた。このテーマに沿った研究に取り組みたい部会員の有志を募り、これをまとめて科研費を申請するというもので、希望人数に応じて基盤（A）あるいは（B）に応募し、応募者がいない場合は、来年度申請に回すという提案であり、承認された。総会でも応募者を募り、応募を希望する部会員には、取り組む研究タイトルと簡単な内容（2～3 行）をメールにて至急、諸岡先生まで連絡するよう依頼があった。

その後有志 10 名により、「シニアの健康・快適な衣生活を支援するための被服衛生学的研究」のテーマで、科学研究費助成基盤研究（A）（一般）に応募した。

・諸岡先生より、来年度の夏季セミナーは、被服材料学会と合同で実施する案があることが発表され、総会時に大会長の平林先生から公表して頂くことが承認された。

（記録：堀）

平成 24 年度 日本家政学会被服衛生学部会臨時総会

議事録抜粋

日時：平成 24 年 9 月 13 日（木）16:50～17:40
場所：シルクセンター国際貿易観光会館地下 1 階会議室（神奈川県横浜市中区山下町 1 番地）
出席者：29 名

以下、報告事項・審議事項ともに役員会と同様であるので、省略する。

（記録：堀）